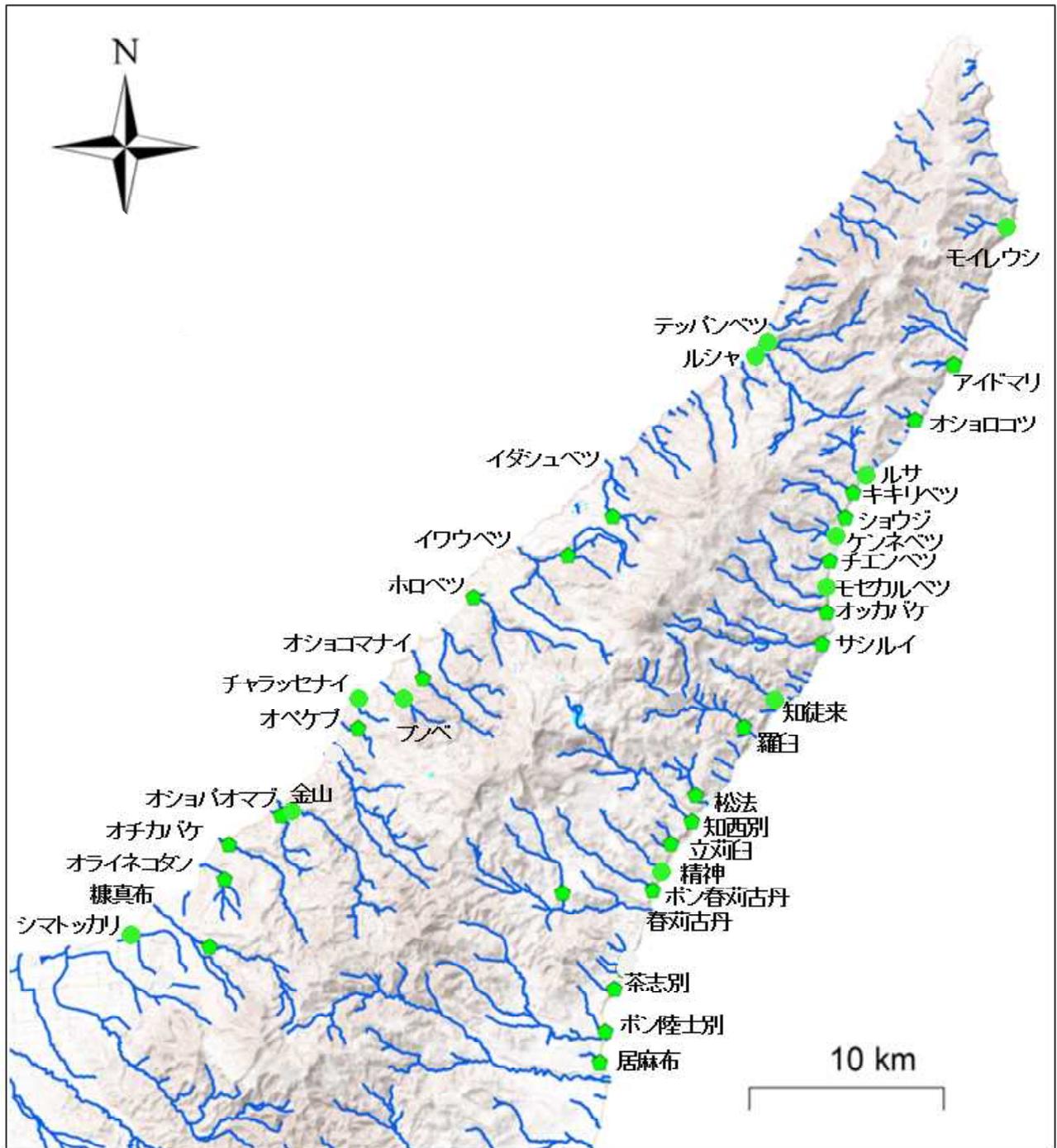


長期モニタリング項目の見直しについて(案)  
(モニタリング手法の追加)

評価項目	<p>・Ⅴ「河川工作物による影響が軽減されるなど、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持されていること。」(モニタリング項目No17,No18)</p> <p>・Ⅷ「気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること」 (モニタリング項目No18)</p>	
モニタリング項目	No17 「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所及び産卵床数モニタリング」	No18 「淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)」
評価基準	<p>・各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること。</p> <p>・河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること。</p>	<p>・資源量が維持されていること。</p> <p>・外来種は、根絶、生息個体数の最小化。</p> <p>・夏季の水温が長期的にみて上昇しないこと。</p>
現行のモニタリング手法	<p>対象河川:ルシャ川、テツパンベツ川、ルサ川</p> <p>① 8月下旬～10月末頃まで、カラフトマスの遡上数、産卵床数を調査</p>	<p>対象河川:知床半島内37河川</p> <p>① 37河川の水温調査(7月～9月)</p> <p>② オショロコマ生息調査(年6～7河川毎)</p> <p>③ 河川の物理環境照査(年6～7河川毎)</p> <p>④ シマトツカリ、知西別川においてニジマスの生息状況調査</p>
調査歴	平成25年度、平成27年度、平成29年度 (2013) (2015) (2017)	平成25年度(2013) ～平成29年度(2017)
「見直しについての検討(案)」	<p>1 現行の調査について</p> <p>①見直しの検討は「なし」 (近年は豊漁年、不漁年のサイクルが入れ替わっている状況でも奇数年の調査を引き続き実施をする予定。 なお、調査結果の考察においてはサケ・マス来遊状況の変動についても考慮する。)</p>	<p>1 現行の調査について</p> <p>①見直しの検討は「なし」 (現行の調査を継続、特に水温に関するデータは数十年単位の蓄積が要すると認識)</p> <p>2 調査手法の追加(案)</p> <p>「環境DNA調査を現行の調査手法に追加」</p> <p>① 目的 生息種等の把握が可能な環境DNA分析により、調査対象河川の外来種の侵入状況及び河川工作物改良箇所での改良効果の評価を目的とする。</p> <p>② 具体的な調査方法(案) 河川に水温計を設置する段階で、37河川(別紙調査対象河川位置図)の採水及び現場濾過作業を行い環境DNA試料の採取を行う。また、河川工作物改良河川においては、改良前に工作物上下流の数カ所において、採水及び現場濾過作業を行い環境DNA試料の採取を行う予定である。</p>



調査対象

- ・ 西側（斜里町側） 15 河川
- ・ 東側（羅臼町側） 22 河川